



高砂同窓会だより

高砂大学校

第 82 号
 高砂大学校同窓会
 〒920-0901 金沢市彦三町1-15-5 電話(076)
 金沢市中央公民館彦三館二階 261-8101
 会 長 島田 裕 正
 事務局長 山 本 省 三
 編集担当
<http://www.takasagoob.net>



金沢市第2本庁舎



新春を迎えて

金沢市長 山 野 之 義

あけましておめでとうござい
 ます。
 会員の皆様には、健やかに新
 春をお迎えになられたことを心
 よりお慶び申し上げます。

高砂大学校同窓会におかれま
 しては、日頃から会員相互の親
 睦を第一に、文化や芸能など幅
 広い分野における生涯学習活動
 に熱心に取り組んでおられ、ま
 た、共同募金活動をはじめとす
 る社会奉仕活動や、金沢マラソ
 ンの沿道応援などの本市事業に
 も力強いご協力をいただいてお
 り、ここに深く敬意と感謝の意
 を表する次第です。

しかし、昨年・一昨年と世界
 的に新型コロナウイルス感染症拡
 大にみまわれた影響で、皆様の
 行動に多大なる制限が加わり、
 十分な活動ができなかったこと
 は非常に残念なことと思いま
 す。止まらない雨はありませ
 ん。この感染拡大が収束した暁
 には、同窓会の皆様におかれま
 しては、従前にも増して、輝か
 しい歴史を積み重ねられ、私た
 ち、後に続く者の道しるべと

なっていたり、一層のご
 活躍をお祈りいたしております。

さて、今年には本市において
 も、様々な施策を積極的に進め
 ることにより、先人たちが磨き
 高めてきた歴史ある金沢のまち
 を、さらに発展させ、未来の世
 代に引き継いでいきたいと考
 えており、そのためには、地域コ
 ミュニティの醸成と充実が大変
 重要であると思っております。

この高砂大学校同窓会での活
 動を通して、その学びから得ら
 れる知識や経験を、町内や地区
 公民館など地域の活動に生かし
 ていただくことが、生涯学習の
 裾野を広げ、地域コミュニティ
 を充実させることにつながると
 確信しております。

結びに、新しい年が島田会長
 様をはじめ高砂大学校同窓会の
 皆様にとつて実り多き一年とな
 りますよう、また、会員の皆様
 が益々ご健勝にてご活躍をさ
 れ、高砂大学校同窓会がさらに
 発展されますよう、心から祈念
 いたしまして、新年のごあいさ
 つといたします。

新春を迎えて

金沢教育委員会 生涯学習課

課長 安宅 英一



新年あけましておめでとうございます。

高砂大学校同窓会会員の皆様のおかれましては、どのようなお正月を迎えられたのでしょうか。

昨年は、本市においても、県の非常事態宣言やまん延防止等重点地域の適用などこれまでと同様に制約のかかった活動を余儀なくされた一年でした。

そんな中、高砂大学校同窓会会員の皆様のおかれましては、「どのようにしたら活動ができるか」、「どこまでの活動なら開催することができるか」など様々なハードルがある中で創意工夫を凝らし、皆様で知恵を絞り、活動実施に向けた検討に取り組んでいただいたことに敬意を表しますとともに、深く感謝を申し上げます。

また、昨年七月から八月にかけて、東京二〇二〇オリン

ピック・パラリンピックが開催され、コロナ禍に負けない選手の一生涯懸命なプレーを見て、課題に立ち向かう勇氣と感動をいただきました。

今回のオリンピックのテーマの一つである「多様性と調和」は、一人一人がお互いを認め合い、未来へつないでいくまさに本市が推進するSDGs（持続可能な開発目標）につながるものだと思います。

引き続き、社会情勢の先行きは不透明ではありますが、皆様が昨年に取り組まれた様々な努力や蓄積された意欲と、そしてこれからの生涯学習で取り組まれる「一人一人が互いを認め合い、誰一人取り残さない」の精神を合わせ、本年は、それぞれの活動がこれ以上のもものにバージョンアップすることを期待しております。

最後になりますが、島田会長をはじめ会員の皆様方からなるご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、新春を迎えてのごあいさつといたしま

年頭挨拶

金沢市中央公民館

館長 西川 信一



新年あけましておめでとうございます。

昨年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、石川県出身の川井梨紗子選手と妹の友香子選手が女子レスリングで金メダルを獲得するなど、様々な競技で好成績を残しました。

アスリートがお互いを尊敬し、時には励まし、称える姿は私も胸を打たれました。

また、パラリンピック自転車ロード女子の金メダリスト杉浦佳子選手の「最年少記録は二度と作れないけれど、最年長記録は作れる」という言葉が特に心に残っています。

若いアスリートの活躍が目される中、日本選手史上最長の金メダリストのさらなる挑戦と結果を出そうという強い決意は、同年代の者として大いに刺激になりました。

さて、新型コロナウイルス感染症は、日本で患者が確認されてから二年になろうとし

ています。コロナ予防にはワクチン接種に加え、自らの免疫力を高めることも大切です。

高砂大学の歌に「心も身をも すこやかに 新しき世に 生き抜かん」という歌詞があります。

今年も、同窓会活動や会員同士の交流を深め、ウィズコロナ時代を元気に明るく過ごしていただきたいと思えます。

中央公民館では、新型コロナウイルス対策として、利用人数や活動内容の制限、使用後の消毒など様々なご不便をかけており、ご協力に大変感謝しております。

感染予防は、利用者やそのご家族、職員の健康、命を守ることが目的です。

現在、新型コロナウイルス対策は、治療薬の開発など次の段階に移ろうとしています。これからも感染予防に配慮しながら利用者ファーストの施設を目指してまいりますので、中央公民館の取り組みに引き続きご理解と協力をお願いいたします。

最後に、島田会長様、執行部役員の皆様をはじめ、高砂大学校同窓会会員の皆様におかれましては、心身ともに健康やかな一年でありますよう心

からお祈り申し上げ、新年のあいさつとさせていただきます。

令和四年「時代の大きな変換」に対応しましょう

高砂大学校同窓会

会長 島田 裕正



新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様には健やかに、新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

新年にあたり、金沢市長山野之義様、金沢市教育長野口弘様、公民館はじめ各部署並びに関係者の皆様には本年もお世話になります。よろしくお願いいたします。

昨年もコロナ禍の中、多くの規制の中コロナ感染者も出さず彦三館では活動してまいりました。同窓会三大行事の体育祭りも、昨年一月当初より計画を立て準備してまいりましたが、急遽、安全・安心を求めることにより「中止

の選択をいたしました。
作品発表会においては彦三館会場です。辛うじて開催をすることができました。

「演芸発表会」についても出演希望を取りながら「中止」をやむなく選択いたしました。九月も半ばごろよりコロナ禍も少しは収まりの傾向が見えましたが、手をこまねいていたわけではありません。

十月、十一月には県立歴史博物館で開催された、尾張徳川家の至宝展を団体鑑賞し、また、十一月には天候を考え研修バス旅行を実施いたしました。お互いバスの中では初めての顔合わせをする会員同士との交流がスムーズにできるよう事前研修をして臨みました。

両事業ともに好評のうちに終了いたしましたことを感謝いたします。
今後は「筋トレ」を中心にフレイル予防の行事を考えております。

十月二十六日にはクラス会長、自主グループ代表者会を開き、会費の値上げやこれからの高砂大学校同窓会活動の内容の充実や運営の在り方について議論いたしました。
コロナ禍での自粛のクセがつき「歩かない」「人と話さ

ない」が日常となりましたが、人間としては大切なことを忘れてはならないと存じます。活動を通じて明るい人間関係を結びましょう。

令和四年度からは新会長のもと新しい役員の皆様の英知により活発な事業の発展が望まれます。先人が築いてきた歴史を絶やすことなく、未来への大きな希望として変貌することが期待されます。

「なあなあ」の時代から組織の時代への大きな変わり方と思われまます。
人生一〇〇年時代と言われる今、健康で楽しくこれからの人生を享受する場を求めて活動いたしましょう。

同窓会会長島田氏との二年間を振り返って

一期三組クラス会長・高砂グリーン会会長

奥野 繁雄

島田会長と同じく、事務局経験皆無の中での事務局活動。先輩期の理事の皆様のおかげで、二年の任期を終えることができました。

そして、来期の役員の方々
に新生高砂大学校同窓会の道筋を整えてバトンを渡したいと考えています。

与えられた部署で、無い知恵を振り絞りましたが、同窓会会員の皆様にご満足頂けないことも多々あったと思えます。

コロナと共生の二年間、前期の役員から引き継いだ三大事業の開催が不可能な中で、前期の模倣さえすれば全て解決できるような状態ではない中で、島田会長の腐心を察するに「きのどくやな」との思いに駆られました。

しかし、それだからこそ、今期の同窓会役員は「なんもしとらん」との批判の中、同窓会会員二、〇〇〇名を下回る予想の中で、今までの同窓会行事の在り方、来季に向けての事務局組織・同窓会規約・三大行事等の見直し、膨大な資料の整理・倉庫の整理、その他会員皆様の目の触れる機会のない事が出来ました。

残された任期の中で、コロナ禍を幸いにして、島田会長を先頭に来期の事務局役員には、新生高砂大学校同窓会の道筋を整えてバトンを渡したいとの考えです。
小生も島田会長のおかげ

で、真剣に今までの同窓会としての諸事業を見直し、ご意見を申し上げる良い機会を得ました。

小生としては、理事として活動した中で、新たな人脈を得た事、一人の力は無力である事を改めて見つめる良き経験でした。

二年間支えて頂いた島田会長はじめ理事皆様に感謝を申し上げます。
ありがとうございました。

老年看護学実習を終えて

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校
教員 北道夕貴子

当校では毎年「老年看護学実習Ⅰ」の一環として、高砂大学校同窓会の様々なクラブ活動と一緒に参加し、「高齢者の健やかな老いを支える」について学ぶ機会をいただいております。昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となり、今年度も学生の参加は困難な状況でした。

何とか学生が会員の皆様とふれあうことはできないかと、

島田会長をはじめ役員の方々にご相談させていただき、当校でご講演いただくことになりました。

対象学生の多くは二〇歳です。祖父母と同居している人は少なく、高齢者の方と生活を共にしたり、コミュニケーションをする経験自体が少ない状況です。今回の講演によって学生の心が揺さぶられ、学生の老年観が深まり、心身共に健康的に年を重ねていく意義を考える機会になればと考えておりました。

講演者の方々の凛とした立ち姿やはきはきした口調などに学生は驚いている様子でした。学生の感想には、「生涯の友、だちとの出会いや活動を通しての交流や楽しみが生活を豊かにし、生きる活力になっていると感じました」「サークル活動の練習や制作では真剣な表情で集中され、交流をしながら笑顔で楽しまれる姿、本番では綺麗な衣装を身にまとい、一致団結して発表される姿、素敵な作品の展示を見て感動しました」

「自分の楽しみは自分で求める、語り合える生涯の友達という言葉が印象に残りました」など、率直に綴られていました。また、戦時中の経験

金沢看護学校出張授業風景



談などの語りをお聴きし、生活様式や価値観の違いを感じ、時代を生き抜かれた皆さまに敬意の念を抱いております。学生に想いを届けようとして熱意をもってお話される姿にも胸を打たれていました。講演を聴いた学生は、心を揺さぶられ深く感動し「健やかな老い」について考える機会となりました。この学びを経て、学生が高齢者の多様性をより深く理解し、看護師として、その人の価値観や考え方を尊重した支援に結び付けられることを願います。このような貴重な機会をいただき、心から感謝申し上げます。

ロウソク

高砂協働プロジェクト会
会長 岡田 堯

日本のロウソクは、中国より仏教とともに鎌倉時代に入りつてきた。

闇夜に灯が持たされ、心に余裕が出てきた。

和ロウソクの灯のゆらめきは、心をなごませてくれ今日まで続いている。

西洋では、キャンドルとして結婚式、クリスマスに多く使われ華やかな雰囲気づくりに役立っている。

その点、日本のロウソクは、神式、仏式に厳かに使われている国民性によるのかも知れない。

先日、医師の本を読んだ。母親の胎内に幼児が一本のロウソクを持っている。そこに父親になる人が、その幼児のロウソクに灯をつける。

その幼児は、灯の付いたロウソクをしっかりと持って親の胎内から産まれてくる。

その子は、灯が消えないように風から灯を守り、雨からも灯を守り、いろんな人生の生活荒波からもこの灯をしっかりと守って生きている。

本人は、今持っているロウ

ソクが長いロウソクか、短いのか、太いのか全く知らない。火を消さないよう頑張っている。その灯は、自分を燃やし、まわりを明るく照らし生

きている。その灯がいつかは消えてゆく、それがその人の持つてきた寿命である。私も先日、手術し今生か

れている。今、持っているロウソクの灯を大事に消さないように頑張つて生きたい。

活動報告

ポランティアの「赤い羽根共同募金活動」について

高砂ポランティア会
会長 安田 誠治

高砂ポランティア会は、高砂大学校同窓会の協力を受けて十月一日(金)〜七日(木)までの(土・日曜日を除く)五日間、朝九時から午後二時までの五時間に亘り、金沢市中央公民館彦三館の正面玄関において赤い羽根共同募金活動を展開しました。

活動は、ポランティア会員延べ四十六名が参加し、同窓会員等彦三館を利用する方々に募金への協力を呼びかけ、集めた募金は各日毎に即日共同募金会へ納付しました。ポランティア会の赤い羽根



共同募金活動は、昭和六十一年から開始して今年で三十六年目になります。この間平成三十年からは高砂大学校同窓会の皆さんにも社会貢献活動の一環として武蔵が辻、香林坊での街頭募金活動に参加していただいています。

今年も、武蔵が辻、香林坊での募金活動を計画し参加者

の募集をしていましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が著しく、募集中の七月二十八日には県内の一日当たりの感染者が一一九人と過去最高を記録するなど第五波が吹き荒れていました。

同窓会では、八月末にコロナ感染防止のため、武蔵が辻、香林坊における募金活動への参加の中止を決定し、当クラブも中止も止む無しとしました。

しかしクラブ会員から「ポランティアは継続が大事であり、コロナ対策を万全にして募金活動をしたらよい。」との意見があり、昨年同様に彦三館正面玄関での実施が浮上しました。ただ、今年のコロナ感染者数は、昨年に比較し大幅に増加しており、万全なコロナ対策を施すことが求められました。そこで参加者には従来のマスク着用、手洗い

の励行、三密回避等の対策に加えて「フェイスシールド」、「使い捨て手袋」の使用を取り入れることで市共同募金委員会、彦三館、同窓会等と協議を重ね規模を縮小しながら実施することに決定しました。幸いにも九月三十日を

もってコロナ感染症のまん延防止等重点措置の適用が解除されましたが、コロナ感染防止のためコロナ対策は予定どおり実施し、募金活動を実施しました。

同窓会員をはじめ彦三館を利用された皆さんにはコロナ禍の中で赤い羽根共同募金にご協力いただきありがとうございます。

また、

○武蔵で募金活動する予定だったが中止になり残念。

ここで募金します。

○町会で募金したが、もう一回します。

彦三館での募金に間に合わないから募金を郵送します。

など皆さんからの声かけにより、参加者一同元氣いただきました。ありがとうございます。

OB歴史会九月月例会 「加賀藩の高齢者政策」

OB歴史会

会長 藤堂 昭雄

去る九月三十日(木)OB歴史会月例会で宇佐美 孝先生の「加賀藩の高齢者政策」と題して講演をいただいた。戦後、我が国においては社会福祉政策の一環として、厚生年金や国民年金の給付がある

が、武家社会が中心であった江戸時代にはどういいう高齢者政策があったのか非常に興味のあるところであった。

まず過去と現代の寿命の比較から講義が始まった。過去の例として貝原益軒の「養生訓」で長生きするには適度な運動と食事が大切と記しているが、実際は織田信長が好んで舞った幸若舞「敦盛」で

「人間、五十年下天のうちを比ぶれば……」にあるように、この時代は五十年も生きればが人間世界の寿命とされていたようだ。現代の人は令和二年厚生労働省の発表によると平均寿命が女性・八七・七才(世界一位)、男性・八一・六才(世界二位)である。一〇〇才以上が全国で八〇、四五〇

人、石川県は九一九人である。我が国では老人を敬愛し、長寿を祝う行事は戦後できたものである。

昭和二十六年「としよりの日」から始まり「老人の日」↓敬老の日(昭和四十一年に祝日の日となった)。

次に江戸時代の高齢者政策であるが加賀藩は五代藩主綱紀が寛文三年(一六六三)より岳父保科正之の後見で九〇才以上の者へ身分を問わず終生一人扶持を与えた。(対象数は一五五人)他藩の例では安永六年(一七七七)米沢藩上杉鷹山が九〇才以上の士分以外の人に米三俵を給しているし、寛政四年(一七八二)老中松平定信は江戸市中の七〇才以上の独身者、長病者に手当を出している。

また、綱紀は岳父保科正之の施策を真似ていることが多かった。小立野の「御救い小屋」も保科が会津藩で既に施策していたことである。その他加賀藩は綱紀が寛文十年(一六七〇)から安政七年(一八六〇)まで高齢者の調査を継続していたことであつた。加賀藩の高齢者政策の特徴は「子孫孝行」・塾養

(老人を助けるのではなく、子供たちが孝行して家族融和を図ることが出来るように一人扶持を出すという目的)。

また、「孝子報償」(老人への敬愛こそが社会規範の基であるとして、老人を大切にしたい人に対して終生一人扶持を与えたのである)。綱紀はこの他老養金(掛け金なしの国民年金のようなもの)支給を行っている。

今回の講義を拝聴して老人への敬愛を昔は重用していたことが判るが今の世代の家族制度とは大きく異なつており、単純比較は出来ないが考えさせられることもあるように感じた。

第二回ウォーキング大会 を終えて

歩の歩のクラブ 副会長
一一〇期一組 小村 明彦

今年度最大のイベント「犀川河川敷ウォーキング大会」を十月三十一日(木)に四高記念公園を起点に三コースに分けて実行させて頂きました。



①コース 三キロ 初心者

②コース 五キロ 中級者
四高記念公園→犀川大橋→新橋→御影大橋 往復

③コース 七キロ 上級者
四高記念公園→犀川大橋→桜橋→下菊橋→上菊橋 往復

昨日からの雨も上がり、開会式では、堂前会長の挨拶、参加者代表一一〇期一組の神保久子さんの挨拶、副会長泉屋さんの大会説明、橋田さんの指導のもと準備体操を行った川の上に雄しい姿を見せる金沢で一番標高の高い奈良岳

に連なる犀川の最上流部大門山に向かつてのウオークでした。

昨年のように川が石を洗い、土をかきくられ流れとなり渦となり下流へと流れるのと同じ、今年の川の流れは川幅(二五m位) 広く静かにゆつくりさらさらと流れていた。いくつかの堰では、ざあざあと音をたてしぶきを上げて落ちて行く様子が象徴的で圧巻でした。

川の瀬には真つ白な大鷲一羽がはねをやすめている姿を、会員は一時足を止めじつと眺めていた： 鷲は十月ごろから群れになり東南アジアに旅たち、十一月にはいなくなるそう。

「小景異情」の一節あんずの詩が刻まれている室生犀星文学碑や犀川神社にも立ち寄り、川敷で記念写真を撮り、グループごとに芝生でお昼の弁当を食べ、帰路に着きました。会員全員の協力で事故もなく大会を無事に終える事ができたことに感謝しています。

高砂オカリナクラブ 高砂琴好会 高砂ビデオクラブの 初めてのコラボレーション

高砂オカリナクラブ
会長 木下 幸子

第四十三回高砂生きがい演芸発表会が、コロナ禍のために中止という連絡を受けがっかりしました。この四月に十人の新会員を迎え、十月五日の演芸発表会に向けて練習に励んでいたからです。

これまで学び習得した技術や、オカリナへの興味等のモチベーションを落とさないために、何か良い方法がないか：この思いが頭をよぎりました。ご指導頂いている有松理恵先生から、オカリナと大正琴の合同演奏会という話が、琴好会の松村すみれ先生と下野和子先生とで持ち上がっているとお聞きし、それぞれの発表だったものを「はじめの合同演奏形式をとれないものか」と思いました。琴好会の福田登紀子会長にも同意頂き、二クラブの三役の顔合わせと会議を持ちました。また、小屋ビデオクラブ会長は金沢文化ホールでの撮影に向けて、クラブ員が一丸



ビデオ撮影シーン



高砂オカリナクラブ・高砂琴好会・
高砂ビデオクラブ 合同

となつて研究されているとお聞きしていました。皆さんのご賛同を頂いて、令和三年十月五日に「初めてのオカリナ・大正琴・ビデオ撮影」という、三者のコラボレーションが実現したのです。

第一部は、オカリナクラブが「私たちの歌」を歌い、有松先生のご指導の下で学んだ「若者たち・エーデルワイス・瀬戸の花嫁・少年時代・紅葉・見上げてごらん夜の星を」の六曲を、有松先生と共に演奏しました。

第二部は高砂琴好会の福田会長の元、松村先生がコンダクターをされ、下野先生のピ

アノに合わせ、「さざんかの宿・すばる・小さな世界」の三曲を演奏しました。

第三部は指導講師の先生方の演奏です。最初に有松先生と下野先生がオカリナで、「小さな旅・夜明けのスキヤット」を演奏されました。続いて松村先生、有松先生、下野先生が大正琴で「悲しみ本線日本海・襟裳岬」を合同演奏されました。その音色はプロ級で、うっとり聞き惚れる世界でした。

第四部はクラブ員・指導講師との全員によるコラボレーションで、「旅愁・故郷」を演奏しました。最後に、ビデ

オカラブの小屋会長がウィットに富んだ問いかけやナレーションで出演者を笑わしりラックスさせ、その様子を撮影されます。仲間の輪を温め、より親しくなった、誠に楽しいひと時でした。出来上がったビデオを見て、緊張の中にも「やり遂げた達成感」がどの顔からも伺え、持てる力を引き出すプロの力量を、小屋会長に見た思いでした。この世には縁(えにし)を結ぶたくさんの「ひも」があります。たまさかの出会える縁もあれば、出会えずに終わってしまう縁もあります。多くの縁の中で「高砂同窓会のクラブ」という縁によって、このような素晴らしい会を持ってたことに感謝したいと思います。

金沢の歌を 楽しく歌いましょう

高砂金沢芸能研究会
会長 轟 健正

金沢に伝わる民俗芸能を研究する会を発足しました。

(十月一日)

金沢には、昔から市民に親しまれた民俗芸能が数多くあ



百万石ぶし伝承会
講師のリードでマスクを着用して歌いました

ります。
私達は、その中から、まず対象を歌に絞り、今はあまり聴けなくなつた曲や自分で歌いたい曲を選び出し、研究し背景や作者の思いを知り、当時の金沢の雰囲気を感じたいと思つています。
活動は、月二回金曜日の午前中彦三館で、毎回テーマを決め、講師の方から説明を受け、実際に歌つてみて、その良さを体感しています。
現会員十三名（男性三名・女性十名）の一人ひとりが自分の興味あるテーマの日に自由に参加することとしており、特に縛りは設けていません。
実習で声を出すだけに、換気に注意し、マスク着用で歌

い、一回の人数を調整し、感染対策は十分です。
決して、本格的で難しい芸能ではなく、誰もが気軽に歌える曲を楽しんでいますので、関心のある方は是非ご見学下さい。
今、練習しているのは、百万石ぶし（昭和二十七年）で、同伝承会の中田善次郎会長が講師です。
「あら、この歌知ってる、懐かしい！」だと思ひます。



男性3名のメンバーです

歴史探訪研修に参加して
一〇五期一組 蔵元千賀子
一度訪れてみたいと思つていた、尾小屋鉱山跡見学に参加出来ました。

こんな山の中に六千人もの人が生活されてとは、それも早くから電化されていたそうで、正に夢の跡でした。
坑道の「メインロード」を歩いてみて、すごい閉塞感と圧迫感を覚えました。
このようなかで作業された人は、本当に強い精神の持ち主だと感心しました。
厳しい生活に耐えられて、夢を叶えられた人、夢破れた人もおられたことでしょう。
作業員の方々はどんな所に住んでおられたのか、興味津々です写真でも残つてないのでしょいか、見てみたいです。
今回の旅行で、良かったのは一〇期も上の方が何人もおられて、皆さん、綺麗に年を重ねられて好奇心と行動力を持つていられたことです。
私も先輩方を見習い十年後も元気でいたいと切に思いました。
今回の企画は、本当に良かったです。
感謝しています。コロナ禍が一日も早く終息して、又一緒にしたいと思います。

歴史探訪研修「大聖寺コース」に参加して

一〇五期二組 水上 紘宇

十一月十六日（火）八時十分金沢駅西口へ集合、大聖寺コースへの参加者は二台のバスに分乗し、八時二十分に出発。二号車に乗車したのは、私たち二組からの参加者三名を含め同窓会の各期九組からの参加者は、二十八名でした。天候も、集合時点の金沢駅西口では、怪しい空模様だったが、石川県九谷焼美術館へ着いた時点では、すかっとした青空に変わつていて、とっても快適な気候でした。
美術館では、ベテランの学術員（？）による説明がなされ、入館した甲斐がありました。
説明の中で、色絵・五彩の間や青手の間があり、なんの事かチンパンカンパン？九谷五彩とは、パンフレットによれば赤・緑・紫・紺青・黄いろを使いこなし、季節に合わせ山水、花鳥風月、人物等を、大胆に優雅に描き出した色絵。また、現実的にもどるが、館内の展示物中、大手鉢のお皿一枚の値が三億円、おちよこがなんと一ヶ一〇万

円、これらの品物はいづれも来客をもてなす際の茶器として使用されていたとの事。
次に訪れたのは北前船の里資料館。北前船は大阪と北海道の間を、物売り買ひしながら航海していた。私は、以前、札幌に勤務した事があり、興味を持ちながら説明を聞きました。理由は、札幌市の近郊に朝里という所があり、その地にあるニシン御殿が印象に残つていたからです。北前船の商売の特徴は、他人の荷物を運んで運賃を稼ぐのではなく、船主が荷主として各港で物売り買ひしながら航海するという点です。
そのため、うまく行けば大儲けできるが、失敗すれば大損、それどころか遭難すれば、命の危険にさらされる事もあったそうです。加賀市の橋立町には、資料によれば、寛政八年の記録では、四十二名の船主が存在していたとの事。船旅は、一年に一往復、乗組員は十〜十五名だったらしい？だから、船主の屋敷（仏間）には夏用・冬用の大小一對の仏壇があり、夏用は船主が漁に出掛けて不在であるので使用、冬用は家族全員

でお参りしていたとの説明でした。

最後は、片山津の中谷宇吉郎「雪の科学館」。有名な言葉に「雪は天から送られた手紙である」があるとの事。初めて耳にした文言である。最初は、雪と氷の実験観察。①人口雪②ダイヤモンドダスト③チンダル像④氷のペンダントを見たり、手で触ったり、ペンダントを造る実験をしたり、なかなか印象に残った科学館だった。

概ねの予定時刻の三時三十分、出発した金沢駅西口に帰着。参加された同窓会会員の皆さま、お付き合ひ、有難うございました。皆さん、今後の同窓会の活動を一緒に盛り上げましょう!!!

(付録 北日本観光バスの水上ガイドさん、苗字が同じなので、詳しく住所等を聞いたが、一致するもの、見当たらず。)

鶴来の街の再認識

一〇七期三組 藤堂 昭雄

今回の鶴来コースは「鶴来の街中、再認識」と目標を定め、鶴来のボランティアガイドグループの「加賀白山よう

ござった」と相談してコース設定を行った。参加者は四十七名でスタートした。

今回のコース設定は鶴来の街中を極力、徒歩で探訪して未だ知らないことを見聞してもらおう目的もあり、参加者もその辺りを理解されて質疑応答を繰り返しながら散策をした。例えば金劔宮の旧来の参道を降りて後ろを振り返ると崖になっており、すかさず参加者から「これ河岸段丘やじー」と質問が出され、「よく知つとるね」と返したりと和気あいあい話しながら、街の裏道を進み、かつての街中の様子を話してもらった。鶴来は、かつては近郷の村々からの色々な物資の集散地であり、これに伴う仕事も沢山あったので街中には息抜きの場所や花街があつたそうである。白山比咩神社でも普段は見ることの難しい「神殿」も遙拝することが出来たこともあり、収穫の多い研修であった。

またガイドさん達も金沢の高砂大学校同窓会が来るという事で一層のガイド力に磨きをかけて素晴らしい案内をしていただいたことに感謝してこの稿をべたい。

歴史探訪研修の旅

(鶴来コース)

一〇八期二組 坂井 信明

恒例の秋のクラス旅行は同窓会が企画するというので便乗することにしました。二号車に十名が参加しました。樹木公園につくと二名のボランティアガイドさんが待つておられました。幼稚園児のにぎやかでほほえましい光景を横目に、ややきつい長い坂道を上り石川県の姿をかたどった池を巡りました。

白山比咩神社は禊場を見てから白山奥宮遥拝場(白山に上つて参つたのと同じご利益がある)から社頭に進みました。習い覚えた祝詞をあげて参拝しました。宝物館には二つの国宝と重文級の物が多数展示されていきました。白山を知らない全国に白山神社が建立されている疑問に対し、白山曼荼羅と全国に布教して歩いた御師の資料もあり勉強になりました。表参道を下り、ご神木に触れ結界の橋を渡り下界に戻りました。

昼食会場は山水苑です。「アルコールは研修の趣旨に添わない」はあまりにも杓子

歴史探訪研修に参加して

一〇九期二組 中村 清

私は、クラブの仲間と「大聖寺コース」に参加しました。最初にビックリ、見学コースが同じなのに二台のバスのルートが違っていたのです。コロナ対策として密を避けるためです。

当日は、天気にも恵まれ気持ちの良い日でした。

中谷宇吉郎 雪の科学館では、雪の結晶を作る実験を見たり、実際にさわったり、各自が氷のペンダントを作ったり、大変面白い経験でした。

昼食は、料亭「山ぎし」で、料理は色取り良く、味付もやさしく、とてもおいしかったです。約一時間弱でしたが楽しい時間でした。

橋立の町並みをそぞろ歩き、北前船の里資料館では、ステキな案内嬢が笑いをさそいながら上手に説明してくれました。

九谷焼美術館には、古くきれいな作品が展示されており、どこのお宅に保管されていたのかと感心しました。車窓からは、美しい白山が望められ、大変楽しいバスツアーでした。

歴史探訪研修小松コース

一〇九期二組 三門 敏雄

私達二十九名は、歴史探訪研修、小松コースに参加しました。昨日までとは打って変わ

り、秋のうららかな日差しの下、紅葉の木々を逢つて一路小松へと向かう。

①「尾小屋鉱山」では、実際に採掘されていた鉱道、マイ

ンロードの入坑が出来、昭和三十年頃の隆盛を極めていた

姿を彷彿させてくれました。バスガイドさんの「嫁にやるなら尾小屋へやらんせ、金

等に話を聞きながら下山。

②「観音下石」の石切り場は、切り立った断崖の大きさに

見る者を圧倒させました。ここでは、特別演出として、高砂

詩吟クラブ五人のメンバーによる合吟、「石山の石より白

し秋の風」が朗々と吟じられ、大きな拍手を博しました。

③最後の研修地は油圧、小松駅前にある「小松の杜」で、

日本に一台ずつしか無い超大型ダンプと油圧ショベルを見

上げ、世界を視野に物造りをしている小松製作所の意気を感じました。

この探訪研修、小松コースは、バスガイドさん、添乗員

さんを含めて初めて訪問した所ばかりで、私達の身近にこんなスケールの大きな自然や

詩歌

高砂さんご句会

大琵琶の一切現るる月明かり

秋満月のころ湖西線を通ると、月光で琵琶湖全体が白く輝いて見え

講師 南 邦夫

木の実落つ早目に着きしレストラン

連休があると次男が泊りに来る様誘ってくれる。ちよつと遠出して

田中 八重子

ひと冬を白極みたる延命菊

姉からもらつた延命菊が一冬白く玄関を明るくしていました。

田村 姿婦子

里山や棚田を飾る曼珠紗華

静かな景色の中で空の青と赤い曼珠紗華のグラデーションが思わず

前 明子

彼岸花見つけてうれしい寺の庭

赤々と細い花の集合体がかたまり咲く様子に見とれました。まんじゅしゃげ

由水 紀子

萩散るや背戸には猫の通り道

家の後ろの狭い庭に萩が咲いている。雨や風に時々通り抜ける野良猫

河内 加代子

人知れず更地にゆれるコスモスや

金沢から七尾方面へ車で走っていると更地にコスモスが風にゆれているの

山本 清美

石仏の梵字読む友秋彼岸

友人の一人に「不思議ちゃん」がいます。絶妙に楽しい人です。

久保 紀代

青柿の落つを例えし師のことば

「君等も虫喰いの青柿になつて落ちないように」遠き日の授業中の思い出です。

大橋 弘子

天からの便りのごとく風花舞う

その頃主人の姉が亡くなりふと空を見上げた時ふわふわと雪が「ありがとう」と

篠原 ひろみ

雨去りし見上げる空に秋の虹

家族でドライブした時に見た虹素晴らしい思い出の一句です

南 依子

高砂俳句会

露けしや墨子読書を勧められ	講師 東野 昭子
白露の宿る草花光りたる	唐 木 茂 男
露けしや仕舞い忘れの三輪車	赤 井 景 子
羽織る物一枚欲しき菊月夜	橋 野 澄 江
滑り台枯葉踏みつつ順を待つ	星 野 昭 子
枯尾花雀の宿となってをり	鈴 木 穂
曼珠沙華畑仕舞ひの踊りかな	土 田 成 行

高砂雪椿句会

声明の洩る、境内黄落期	講師 南 邦夫
初冬にリズム体操脳冴へし	宮 本 順 治
秋月夜一人で祝ふ米寿かな	杉 田 信 治
秋風にあさがおの町くつきりと	藤 平 田 友 市
父の日の贈られし品しサイズ	酒 井 高 三
皺おはし稲束ねるに愛しく	山 本 悦 子
無花果の熟れのいくつや玻璃戸越し	古 田 静 子

高砂OB短歌会詠草

金沢をおやまと呼びしわが祖母ははるかなりけり芒が穂たてて	講師 島 田 鎮子
ハイヒールの音たてて病院歩くのは雰囲気じゃない素敵な彼女	有 川 明 美
好きだったスカートきつくなっていてコロナの所為にしたいの私	松 波 宏 子
雨降って地固まるかは知らぬまま目に浮かぶのは砂漠のラクダ	国 枝 明 美
窓際に桔梗あさがお育てつつ日々の暮しに彩り添えぬ	蘆 原 洋 子
季節からやさしさいただくこの道は葛の花敷きてピンクロードに	竹 本 栄 子
日本地図はコロナ第五波伝えて真赤に染まるを呆然と見き	千 田 一 予
悲しみは思い出となりわが庭に貴女のカラーが九輪も咲きぬ	福 田 美 代 子
海に向きではまなすの花添うように椅子長々と果て見えぬなり	鍋 島 千 佳 子
高き空に綿雲ちぎれて流れゆく形くずれつつ青空ひろがる	嶋 静 子
蝉時雨の観音坂を登りきて四万六千日に求むる唐黍	吉 村 輝 子
しほさるの聞こゆる道に浜茄子の咲きつつ葉陰に紅き実二つ三つ	橋 本 信 夫
高層のホテルに続きマンションの工事始まり止まらぬ騒音	流 章 子
ゴンドラの真下の秋桜波立って麓へ傾るる見つつ登りぬ	水 上 佐 代 子

高砂石落句会

晚鐘や過疎に寂しく柿熟るる
 甘柿の夕餉の一品白あえに
 無医村にからす群がり柿たわわ
 さしむかいちびりちびりと今年酒
 新酒酌むワイングラスで之令和
 風鈴の神秘的な音色孫と聞く
 下戸の身に猫に小判の今年酒
 新しい杉玉吊られ新酒蔵
 明け渡すなほざりの庭柿熟す
 居酒屋にあまたの新酒並ぶ棚

原 篠 義 景
 表 和 子
 上 島 ミ イ
 小 島 悦 子
 高 松 素 子
 竹 村 つ 代
 中 野 吉 隆
 中 村 三 津 子
 広 瀬 照 子
 宮 田 佳 子

高砂沙羅の花句会

峡谷に十尋の橋や赤とんぼ
 更けてなほ高まる虫のシンフォニー
 不揃ひも塩梅よしと零余子飯
 岡に濃く燃ゆ夕日の曼珠沙華
 路地裏は闇もたをやか虫しぐれ
 数珠玉や小さき黒の輝きを
 暁闇の庭の隅より冬の虫

講師 坂下信子
 本 田 誠 一 郎
 桜 谷 幸 子
 松 山 美 津 子
 渡 辺 修 身
 中 村 成 一
 中 野 尚 志

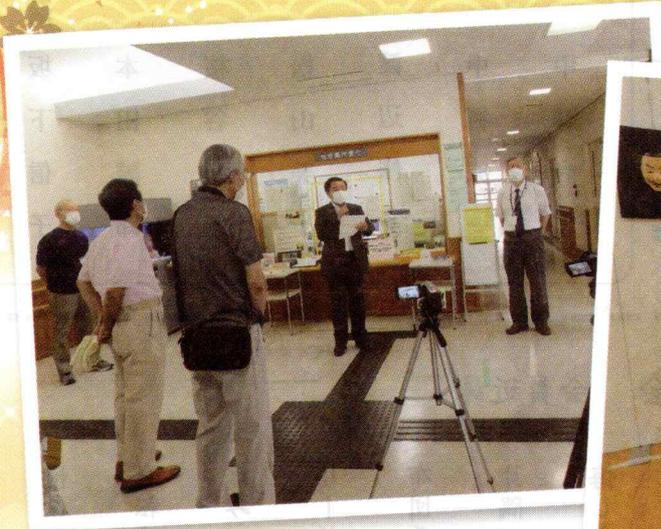
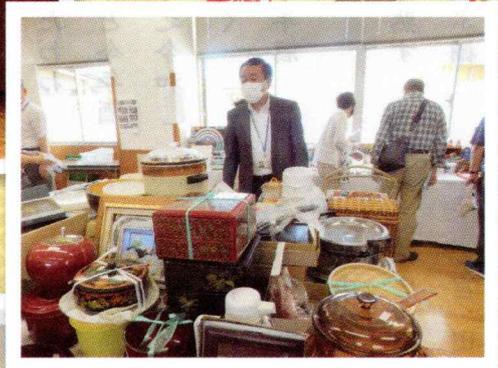
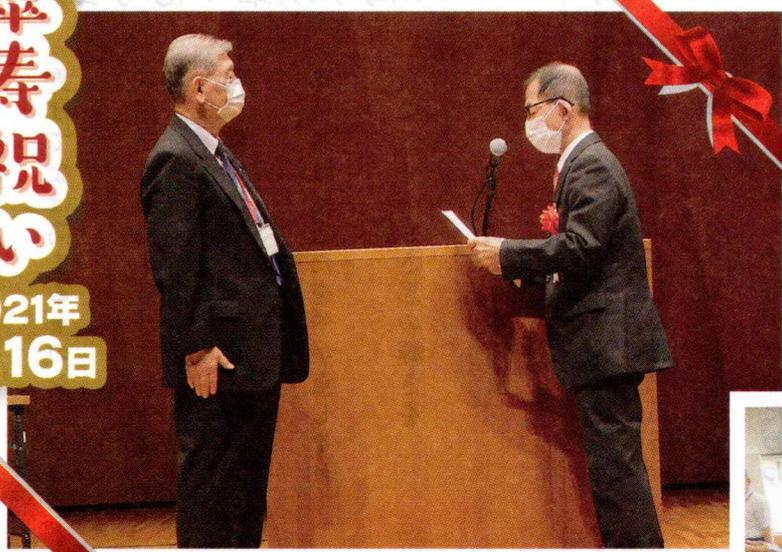
高砂川柳会 会員近詠

憧れた悠悠自適夢と消え
 自転する地球で転び易くなる
 踏みつけた罪を知ってる靴の底
 リーゼント宅配さんの決め頭
 布団干し膨らむ夢も温かい
 片隅で人知れず咲く花が好き
 悔しさと虚しさに泣く娘逝く
 回らないお寿司時価が気にかかる
 抜け穴は神の差し入れ助け船
 漫才は毒舌吐いて人気出る
 お日様を拝む姿を孫が真似
 残り火が燻る老いの好奇心
 清濁を併せ呑む人俺なれぬ
 階級がもの言う組織もの言えず

講師 河崎 香太郎
 細 川 幸 恵
 竹 本 吉 紀
 奥 田 美 智 代
 笹 山 綾 子
 清 左 と み 子
 新 橋 忠
 今 川 務
 島 田 裕 正
 宮 崎 誠 子
 中 村 祥 子
 中 野 壽 美 子
 西 村 孝 昭
 釣 見 八 重 子

傘寿祝い

2021年
9月16日



2021年8月1日・2日
作品発表会



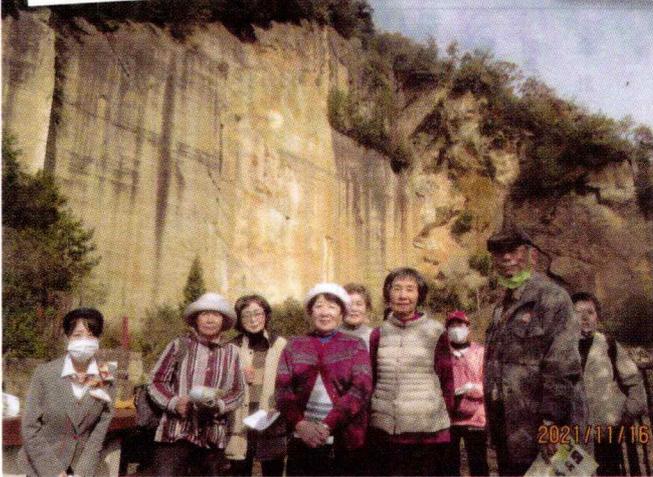
前期団体観賞会
2021年10月28日
秋の研修会

会沢市
高砂大学校同窓会



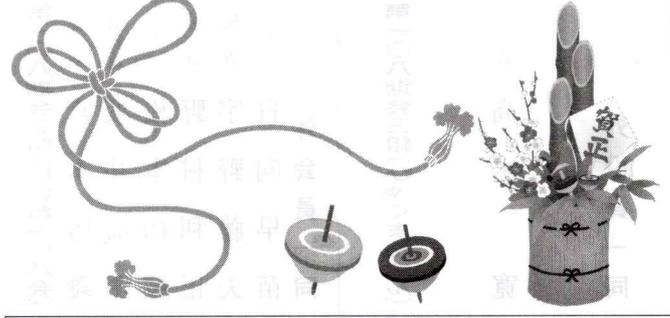
歴史探訪研修の旅

2021年11月16日



<p>副会長 清水潤 会長 山田高規 外会員一同</p> <p>第八十八期会二組(すえひろ会)</p>	<p>第89期 山尾俊子 第88期 宮崎美千代 第86期 寺尾照子 第80期 山森外喜枝 外会員一同</p>	<p>会長 奥野繁雄 第74期 高橋多満子 第80期 山森外喜枝 外会員一同</p> <p>高砂彦ニクラス会</p>
<p>外会員一同</p> <p>第九十三期会二組(九三二会)</p>	<p>副会長 小村美和子 会長 木越敏雄 監査 蓮野妙子 外会員一同</p> <p>第九十三期会二組(九三二の会)</p>	<p>会長 笹野和行 副会長 服部しげ子 会計 永山りえ 監査 山城栄一 外会員一同</p> <p>第九十二期会二組(九三二会) <small>キョウニカイ</small></p>
<p>副会長 山田昭三 会長 池田敏子 監査 浅地眞智子 外役員・会員一同</p> <p>第九十五期会二組(九五二会)</p>	<p>副会長 柴田節子 会長 米澤慶子 会計 松本かつ美 監査 中島昭子 外役員一同</p> <p>第九十五期会二組(九五二の会) <small>キョウニカイ</small></p>	<p>相談役 細川尚 会長 岡田堯 外役員一同</p> <p>第九十四期会三組(悠遊会)</p>
<p>副会長 谷内賢正 会長 谷内賢正 会計 谷内輝子 監査 布豊雄 外会員一同</p> <p>第九十六期会二組</p>	<p>副会長 吉田一雄 会長 飯田勝雄 会計 永田文子 監査 河上広美子 安田伸子 外役員一同</p> <p>第九十六期会二組(九六一会) <small>キョウニカイ</small></p>	<p>副会長 中野吉隆 会長 原篠義治 監査 中川富子 会計 中村三津子 外会員一同</p> <p>第九十五期会三組(九五三会)</p>
<p>副会長 室谷義昭 会長 従二良子 会計 平田昭一 監査 野崎義枝 外会員一同</p> <p>第九十七期会二組(九七二会) <small>コナツ</small></p>	<p>外会員一同</p> <p>第九十七期会二組(九七二会) <small>クナイ</small></p>	<p>副会長 山原伸二 会長 山原伸二 会計 西村邦子 監査 本郷好弘 外会員一同</p> <p>第九十六期会三組(九六三会) <small>クナツ</small></p>
<p>副会長 土田智恵子 会長 林芳樹 副会長 細川幸恵 兼 副会長 武田幸恵 兼 副会長 平野昭恵 外会員一同</p> <p>第九十八期会三組(九八三会)</p>	<p>顧問 小西優 副会長 加野一昭 会長 茶谷実 副会長 油谷妙子 会計 広岡茂雄 監査 中川博夫 外会員一同</p> <p>第九十八期会二組(九八一二会)</p>	<p>副会長 菊池瑩子 会長 小泉雄一 副会長 福久悦子 会計 橋本博臣 監査 上木恵子 外会員一同</p> <p>第九十八期会一組(九八一一会)</p>



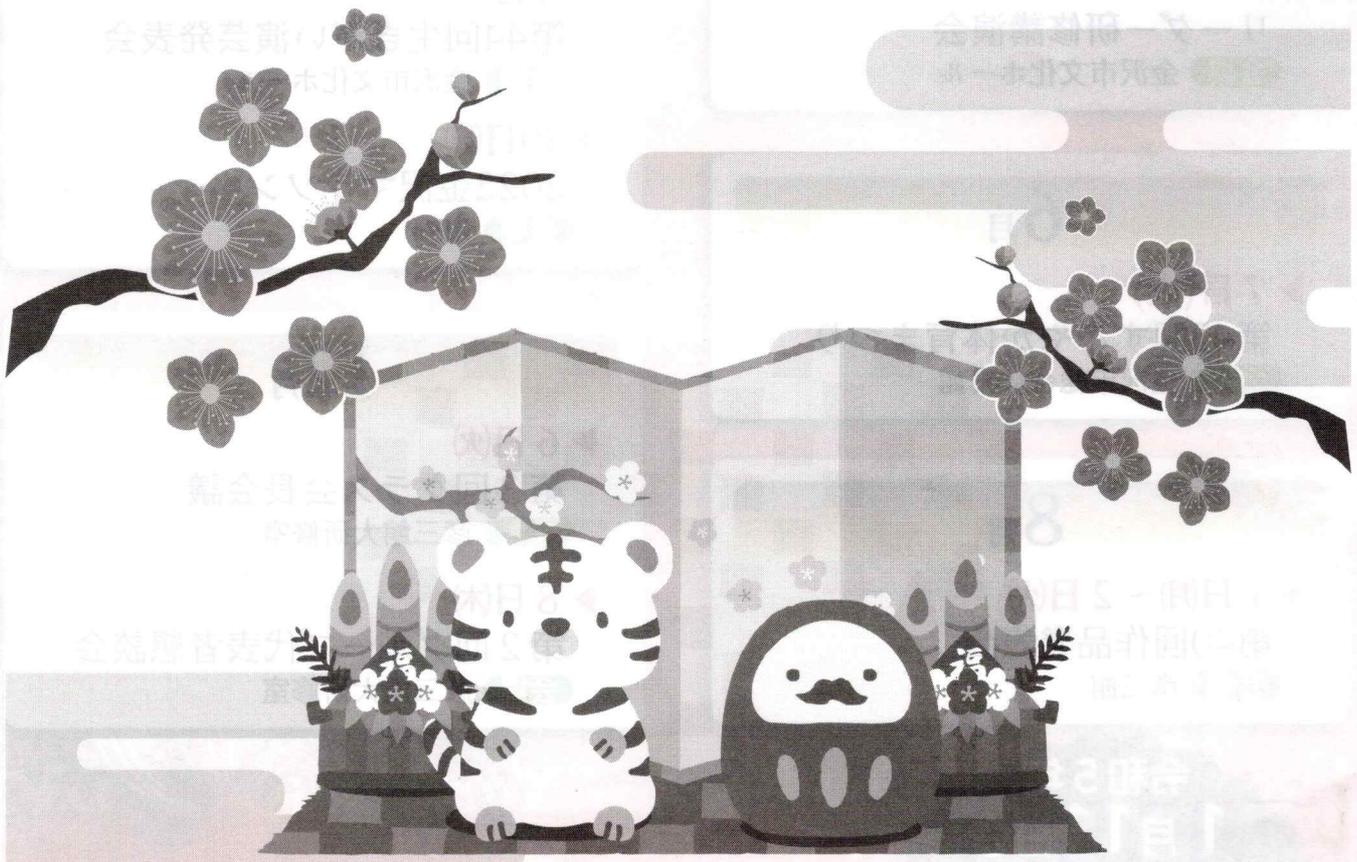
<p>百月曜会会員一同</p> <p>第一〇〇期会一組</p>	<p>第九十九期会三組(つぐみ会)</p> <p>会長 林哲朗 副会長 加藤恵美子 執行部長 関藤菊雄 会計 藤村英志 監査役 若山和洋 事務局 長 若山和洋</p> <p>外クラス会員一同</p>	<p>第九十九期会二組(九九二会)</p> <p>会長 大屋衛 副会長 相倉富子 監査 山田嘉久</p> <p>外会員一同</p>	<p>第九十九期会一組(九九一会)</p> <p>会長 山田長生 副会長 斉藤亮 " 駒井美奈子 会計 紺村雪子</p> <p>外班長・副班長・会員一同</p>
<p>櫻会一同</p> <p>第一〇一期会二組(櫻会)</p>	<p>第一〇二期会二組(あすなろ会)</p> <p>会長 谷口和男 副会長 中川洋子 " 中本洋子 " 玉田佐登美 " 松村すみれ " 福田登紀子</p> <p>外会員一同</p>	<p>第一〇〇期会三組(百福会)</p> <p>会長 荒井久秋 副会長 越澤紀子 " 二口美智子 " 本郷美智子 " 曾谷外茂雄 " 中野好伸 相談役 松野好伸</p> <p>外会員一同</p>	<p>第一〇〇期会二組</p> <p>百寿会</p>
<p>外副班長・会員一同</p> <p>第一〇二期会二組(ほほえみ会)</p>	<p>第一〇二期会二組(ほほえみ会)</p> <p>会長 高田政一 副会長 木林政男 " 西永由美子 " 蓑谷郁夫 " 高木明吉 " 山下明子 " 山崎七子 " 南原喜子 " 小原喜子 " 村井佐恵子 " 浦崎行子 " 北水ミユキ " 深水和子 " 斉藤芳子</p> <p>外副班長・会員一同</p>	<p>第一〇二期会一組(とわに会)</p> <p>会長 北本和夫 副会長 中山栄蔵 " 加藤外喜子 " 吉田久司 " 千川康夫 " 野崎貞一</p> <p>外会員一同</p>	<p>第一〇二期会三組(二〇二ゴルド)</p> <p>会長 田中敏之 副会長 田中徹也 " 徳田昭子 " 武部昭睦 " 池上直一 " 布かをり</p> <p>外役員・会員一同</p>
	<p>第一〇二期会三組(ひふみ会)</p> <p>会長 酒井高三 副会長 桜井一郎 " 木下幸子 " 左藤外葉子 " 山根光恵 " 千綾敏則 " 藏田八十之 " 中川美智子 " 橋本繁</p> <p>外会員一同</p>	<p>楽しい一〇三期会</p> <p>あわせて楽しい一〇三期会 皆で旅行や食事を いろんなプランで助け合い 交際範囲を拡大し 強い絆を結びたい</p> <p>この世に生まれてきたからには 元気で長生きいたしましょう</p> <p>一組かわいい「ひとみ会」 会長 上田タケヨ 副会長 岡本郁子</p> <p>" 高野貴美子 " 南依子 " 龍瀧聖代</p> <p>二組はゆかしい「ひむろ会」 相談役 小坂進 会長 岡田淑子 副会長 稲葉乃婦代 " 中村孝雄 " 宮本衛</p> <p>三組豪快「なみ(73)の会」 会長代理 米田誠一 副会長 一塚治 " 村井キミ子</p>	
	<p>第一〇四期会三組(椎の木会)</p> <p>相談役 加藤浩志 " 橋田富子 " 舘洋美 " 高田和子 " 藍元君美 " 小田和子 " 村田和子 " 東林武志 " 麻佐志</p> <p>外会員一同</p>	<p>第一〇四期会二組(あじさい会)</p> <p>会長 川西幸夫 副会長 松村幸夫 " 荒山千代枝 " 中村清</p> <p>外会員一同</p>	<p>第一〇四期会一組(ひとし月組)</p> <p>会員一同</p>

<p>第一〇五期会二組(きずな会)</p> <p>会長 水上 紘子 副会長 須田 郁子 会計 大谷 暁子 監査 福島 幸洋 班長 小島 美智子</p> <p>三輪 武司 新保 明美 北間 信勝 石田 淑迦 久保 擴一 外会員一同</p>	<p>第一〇六期会二組(一〇六二組)</p> <p>会長 安田 誠治 副会長 今本 和枝 会計 笠松 雅明 監査 辻田 和枝 坂本 一枝 外会員一同</p>	<p>第一〇六期会一組(高砂会)</p> <p>会長 諸橋 重紀 副会長 坂下 啓子 会計 織田 健治 監査 野村 睦子 宮城 昭美 外会員一同</p>	<p>第一〇五期会三組(金曜会)</p> <p>会長 井沢 義則 副会長 天野 陽子 会計 幾老 康弘 監査 山岸 静子 小坂 鉄隆 南 隆明 外役員・会員一同</p>
<p>第一〇六期会三組(いきいき会)</p> <p>会長 轟 健正 副会長 野村 智恵子 会計 北村 清一 監査 細川 優美子 伊藤 澄子 外会員一同</p>	<p>第一〇七期会三組(悠々会)</p> <p>役員・班長 会員一同</p>	<p>第一〇七期会二組(絆)</p> <p>役員・班長 会員一同</p>	<p>第一〇七期会一組(富士山会)</p> <p>会長 島田 裕正 副会長 米光 嘉昭 会計 松山 幸江 中村 信子 宇野 澄子 外会員一同</p>
<p>第一〇八期会二組(かがやき会)</p> <p>会長 山本 省三 副会長 田中 隆夫 会計 源田 孝子 監査 高瀬 崇博 山本 清美 外会員一同</p>	<p>第一〇九期会一組</p> <p>くろゆり会一〇九 一同</p>	<p>第一〇八期会三組(ひやくまんさん)</p> <p>会長 高木 寛 外役員一同</p>	<p>第一〇八期会三組(いいね一〇八会)</p> <p>会長 宮本 房義 副会長 坂井 信明 会計 松本 松枝 監査 野村 利正 宇野 藤夫 日向 早苗 外会員一同</p>
<p>第一〇九期会三組(まれの会)</p> <p>会長 塚西 協三 副会長 越島 正喜 会計 多田 公子 監査 熊谷 喜久治 川島 登子 外会員一同</p>	<p>第一一〇期会二組</p> <p>ほのぼの会 一同</p>	<p>第一一〇期会一組(なこみ会)</p> <p>会長 堂前 良作 副会長 馬替 幸子 会計 市川 久夫 監査 堀田 ゆかり 稲葉 幸子 外会員一同</p>	<p>第一〇九期会三組(ほほえみ会)</p> <p>会長 上野 健三 副会長 守田 晴一 会計 樋内 満里子 竹之内 町子 第一班長 平野 敏夫 第二班長 堀野 輝彦 第三班長 今森 勝彦 第四班長 菱田 幸子 第五班長 佐伯 昌子 外会員一同</p>
<p>第一一二二期会三組</p> <p>第一一二二期会二組</p> <p>第一一二二期会一組</p> <p>いいわ一〇期 会員一同</p>	<p>第一一二二期会三組</p> <p>かがやき一 会員一同</p>	<p>第一一二二期会組(トリプルワン二)</p> <p>会長 泉屋 和彦 副会長 小原 松彦 会計 坂田 多毅 監査 東木 素子 真鍋 紀美子 外会員一同</p>	<p>第一一二二期会二組(オールわん会)</p> <p>会長 高本 昇 副会長 清水 良子 新田 公子 寺賀 俊明 佐々木 眞砂子 外会員一同</p>

高砂大学校同窓会役員

事務員	相談役	特命(医療・健康)・相談役	監事	監事	副会計	副会計	理事	理事	副理事長(演芸・交流)	理事	理事	副理事長(作品展・展示)	理事	理事	副理事長(体育)	理事	理事	副理事長(福祉・渉外)	理事	理事	副理事長(事務局・広報)	会長
堀川佳子	西尾一	小坂進	北上敦	小原松彦	中村綾子	宮本房義	河島育江	越島正喜	滝川正昭	堀田健寛	上野俊三	瀬戸一衛	太田隆義	石野昭雄	藤堂清美	近藤美子	吉田健一	増田一	山本三	島田省正		

堀川佳子 西尾一 小坂進 北上敦 小原松彦 中村綾子 宮本房義 河島育江 越島正喜 滝川正昭 堀田健寛 上野俊三 瀬戸一衛 太田隆義 石野昭雄 藤堂清美 近藤美子 吉田健一 増田一 山本三 島田省正



おたのしみ



2022年度
行事
カレンダー

4月

- ▶ 4日(月)
令和4年度総会
会場 彦三館大研修室
- ▶ 18日(月)
第1回クラス会長会議
会場 彦三館大研修室
- ▶ 21日(木)
第1回グループ代表者懇談会
会場 彦三館大研修室
- ▶ 28日(木)
リーダー研修講演会
会場 金沢市文化ホール

9月

- ▶ 1日(木)
第2回クラス会長会議
会場 彦三館大研修室

10月

- ▶ 1日(土)～7日(金)
赤い羽根共同募金
会場 市内
- ▶ 4日(火)
第44回生きがい演芸発表会
会場 金沢市文化ホール
- ▶ 30日(日)
2022金沢マラソン
会場 市内

6月

- ▶ 7日(火)
第42回すこやか体育まつり
会場 金沢市総合体育館

8月

- ▶ 1日(月)～2日(火)
第40回作品発表会
会場 彦三館

12月

- ▶ 6日(火)
第3回クラス会長会議
会場 彦三館大研修室
- ▶ 8日(木)
第2回グループ代表者懇談会
会場 彦三館大研修室



令和5年
1月11日(水)

新春のつどい 会場：ホテル金沢

※会場等の都合により日程及び会場を変更する場合がありますので予めご了承下さい。